

Model 06

環境省

中部地方環境事務所長野自然環境事務所
野生生物課希少生物係長

さわの あゆみ
澤野 歩美
Ayumi Sawano

Profile

- 平成15年・環境省入省(II種(農学区分)採用)
自然環境局北関東地区自然保護事務所
国立公園科係員兼湯元自然保護官
自然公園法許認可業務、自然ふれあい業務
- 平成17年・自然環境局国立公園課事業係係員
自然公園許認可業務、公園計画における
事業決定関連業務
- 平成18年・釧路湿原自然保護官事務所自然保護官
自然再生事業普及啓発業務、公園計画点
検業務、自然公園法許認可業務、自然ふれ
あい業務
- 平成22年・～長男出産
産前・産後休暇、育児休業(11か月)
- 平成23年・新宿御苑管理事務所温室科主査兼菊科
係員
施設管理、普及啓発事業、契約・物品購入
- 平成25年・～長女出産
産前・産後休暇、育児休業(9か月)
- 平成26年・中部地方環境事務所長野自然環境事務所
野生生物課希少生物係長
鳥獣保護管理法関連業務、二ホンジカ対
策業務

育児で気付

仕事をする上での心掛け

いつ子供が熱を出すか分からないので、明日は出勤できないかもしれない覚悟で仕事をしています。以前より、作業の優先順位を考えるようになりました。慌ただしい毎日ですが、精神的には出産後の方が楽になりました。混沌とした育児の時間から理路整然とした仕事の時間に移るとほっとします。仕事に行く喜びを毎朝感じています。また、忙しく仕事をしていても定時になればお迎えとなり、帰宅後は仕事のことを悩む暇がありません。育児と仕事の両方に取り組むことで、精神的なバランスが取れていると感じます。

キャリアアップについて

今は仕事を継続することに重点を置いており昇任は考えていませんが、仕事の質は、年相応に高まるよう努力しないとイケないと考えています。

しかし、育児により定時外の出張や休日出勤が困難になりました。関係者と連携をとりながら仕事を進めるにはこうした業務が必要なこともあり、出産前は思うままに対応できていたので、今はもどかしい思いです。宿泊を伴う研修への参加も困難になりました。オンライン研修などを積極的に受けるように心掛けていますが、職員として必要な研修時間は足りないと感じます。

働き方の工夫

数年ごとの転勤が前提となる職場なので、復帰は2回とも異動先でした。異動先では子供の保育園を見付け、慣らし保育期間に対応する必要があります。1回目の復帰は、私と入れ替わりで夫が育児を取得しました。2回目の復帰は、転勤の1か月後にすることで乗り切りました。復帰後は、子供が発熱するとまず私が休暇を取り、長引く時は夫婦で半日ずつ休暇を取ることで業務が滞ることを減らすようにしています。

く大切なこと

お迎えの時間に合わせるため、休憩時間の変更と早出遅出勤務の制度を活用した時期もあります。2つの制度を組み合わせると、勤務時間を短縮しなくても、退庁時間を45分早めることが可能になりました。ファミリーサポート制度を活用し、お迎えをお願いしたこともあります。ただ、こうした制度の活用は、職場の理解と協力のみならず、子供の適応能力も求められると思います。うちの場合、ファミリーサポート制度に頼れるのはお迎えまでで、その後の預かりまでは頼りませんでした。ここで無理をすると、子供の気持ちが落ち着くまで何日も要し、生活が荒れてしまうことが予想されました。

転勤で活きる夫婦の役割分担

夫は同業なので、共働きで生活が成り立つように、転勤に当たっては職場、住居、保育園の位置関係と、発達障害のある長男の療育施設の確保は重要です。今後は長男が入学するので、学校の場所、特別支援学級や放課後支援施設の確保も必要になり、更に大変になりそうです。

夫は将来を考えることが好きで、私は今の行動が大切というように、夫婦の性格は全然違います。日常では子供にまわりつかけながら家事をする私の横で夫はネット検索をしていたりして、私はイライラすることもあります。しかし、あらかじめ複数の転勤候補地について必要な情報が収集されていて、人事面談の時には具体的な相談

ができるのは夫のおかげです。

支えてくれる人の大切さ

最後に、仕事と子育てを両立させるために重要なことは、相談できる人がいることだと思います。私は、保育園や療育施設の先生方、子育て中の同僚などに何度も救われてきました。話を聞いてもらうだけで心が軽くなり、具体的なアドバイスのおかげで問題を乗り越えることができています。子育てにより多くの人に支えられていることを実感し、学ぶことが多いです。こうした経験は、仕事にも生きてくると思います。

一日の
タイムスケジュール例

- 5:30 起床、朝食作り、子供の相手
- 7:45 登園、出勤
- 8:30 始業
- 12:00～13:00 余力があれば帰宅して家事
- 17:15 退庁、お迎え
- 17:40 帰宅、夕食作り、子供の相手
- 19:30 入浴、家事、登園準備等
- 21:30 子供の就寝、自分も一緒に寝る
- 22:00以降 余力があれば家事、雑用、ネット閲覧等。起きられずに朝まで寝る日も多い。

女性職員へのメッセージ

仕事と子育ての両立を社会が応援してくれる時代で、支援制度が日々充実していくのを感じます。子育て中は業務内容や勤務時間が制約されますが、それでも自分は社会に必要とされていると自信を持っていきたいですね。